

本書の構成は次のようになっています。

序説編

物質名詞について（序説1～4） p 8～

抽象名詞について（序説5～8） p 12～

本編

不定冠詞（a / an）について（不定冠詞1～3） p 16～

定冠詞（the） ⇒ 目次は次頁から p 19～

特集編 ⇒ 目次は『目次5』 p 102～

出典 p 184～

英語索引 p 206

日本語索引（文法用語以外のもの） p 207

文法用語の索引 p 208

引用文献 p 209

## 定冠詞 (the) の分類

## 1. その場の状況などによるもの

その場の状況 (= 外界照応) やお互いの関係などから、相手にもすぐにそれと特定できるもの  
(その場から見えるものとは限らない)

Did **the children** behave today? (今日は子供たちは行儀がよかったですか。)

Can you draw me a map showing the way to **the post office**? (最寄りの郵便局)

## 2. 前後の文脈によるもの

## i. 前出した内容と呼応するもの (= 前方照応)

More than 1,500 cases have been reported nationwide, and 25 persons are known to have died from **the condition**. (全国で1,500件を上回る症例が報告され、25人がすでにこの病気で死亡したことが分かっている。)

"I beg your pardon, could you say that again more slowly." "Sure. I will also write **the information** for you."  
「もう少しゆっくりと繰り返してもらえますか。」「いいですよ。話の内容も書いておきましょう。」

以下のように分類した上で解説する。

## a. 前出の「名詞」と呼応するもの。

次の4パターンの名詞に the を先行させる例がこれに該当する。

a-1. 前出の名詞をそのまま繰り返して用いる名詞

a-2. 前出の名詞の代りとして用いられる名詞 (= 言い換えられた同義・類義の名詞)

a-3-1. 前出の名詞によって特定・限定される名詞

3-2. 前出の名詞によって連想的に理解・推測などを行うことができる名詞

## b. 前出の「文脈」と呼応するもの

前の「文脈」から自ずと (あるいは連想的に) 理解・推測などを行うことができる名詞に the を先行させるもの

## ii. 後出する内容によって特定・限定されるもの (= 後方照応)

She didn't have **the time** to do it herself. (彼女にはそれを自分でやるだけの時間がなかった。)

I didn't like **the way** he spoke to us. (我々に対する彼の口のきき方)

## 3. 定冠詞と名詞が一体として用いられる傾向が強いもの（を中心とした例）

（この傾向が強いものほど、定型的・画一的・紋切型的な用例となる。共通認識が容易に得られるか、お互いが具体的な知識を有するので、名詞と、それについての同定を求めるための定冠詞との「結びつき・親和性・一体性」が極めて強いと言える。）

この範疇における定冠詞の働きには次のようなものがある。

- i. 類似のものから区別し、ときに強く対比させる。
  - a. 類似のものが三つ以上ある中で、一つだけを抽出し区別する。
    - a-1. 「定型例」（例： I took her by *the hand*.)
    - 2. 「個別事例」
  - b. 対照的な二つのもののうち的一方であることを表す。
- ii. 標準モデルを想起させる、あるいは典型的イメージを喚起する。
  - a. 主語以外に「the + 普通名詞の単数形」を用いて、標準モデルを想起させる、あるいは典型的イメージを喚起する。（製品・楽器・道具名など）
  - b. 一般的な総称表現
  - c. 抽象的な概念や隠喩を表す。
    - c-1. 「the + 普通名詞（の主に単数形）」を用いて
    - 2. 「the + 形容詞」を用いて（ある特質を有する人々を指す例もここに含める。）
- iii. 唯一性を示す、強調する。（固有名詞的な性格のものを中心とした例）
- iv. 全体をひとまとめにする。（複数の構成要素をひとまとめにすることが特に多い。）
- v. 地理的名称に関して――
 

「長大なものや広域にまたがるもの」には the が先行する。

あるいはまた、感覚的にはその境界を認識しにくいものに対して、実際には境界があってその範囲は有限であることを示す意味で the を先行させる。
- vi. 限られた場所や空間などの一部であることを表す。（in front of と in the front of の違いなど）
 

あるいは、看護・監督・支配などを受けている状態にあることを表す。（in charge of と in the charge of の違いなど）

なお、全体について言える基本ルールとして、A of B の形をした固有名詞（普通名詞から派生した固有名詞）には the を先行させるのが普通である。

この範疇の用法は「類似のものから区別し、ときに強く対比させる」だけでもほぼ説明はつく。つまり、より単純化すれば ii～vi も i に収斂できるわけだが、やはりこれらは別に覚えていた方が便利である。

ii は i が総称的あるいは抽象的な意味を帯びるように深化したもので、iii は唯一性・固有性を強調するように深化したものである。iv もよく使う用法である。v は視覚的なイメージを描きやすく有益と思われるので、ひとつの覚え方として入れた。vi は特におもしろい使い分けである。

4. 「唯一性」を明示するためのもの（文脈やその場の状況で the が選択されるもの）

（3. で述べたような the と名詞の間の「結びつき・親和性・一体性」がもたらされるわけではなく、文意を根拠に the が置かれる点が 3. iii とは大きく異なる。4. ii では不定冠詞を置くこともあるが、定冠詞か不定冠詞かの選択が文意を大きく左右する。）

i. 他に代る存在が無いために、絶対的に唯一の存在となるもの（不定冠詞には置き換えられない。）

He is **(the)** *principal of our school*. (我々の学校の校長先生)

He is **a** *principal of our school*. は通常はありえない文である。

※ 『5. 意図的に強調するためのもの』の一部も、「他に代るものがないもの」と考えればここに含めることもできよう。

He's **the** *man for the job*. (彼はその仕事に適任だ。)

This is **the** *drink* for hot weather. (これこそ暑い時の格好の飲み物だ。)

ii. 同等のものが複数存在する可能性も通常はあるが、「この場合には唯一のものとなる」ことを明示するためのもの（不定冠詞を用いれば意味が異なる。）

He is **the** *victim of that crime*. (唯一の犠牲者) He is **a** *victim of...* なら「犠牲者のひとり」

He opened **the** *door to success*. なら、成功する方法は一つしかないが、**a** *door to...* なら複数ある方法のうちの一つ。

ii で「この場合には唯一のものとなる」と判断するには文脈が必要なことが多いため、これを次の3項目に分けて記述する。

a-1. 「唯一のもの」と言える例（共通認識がある場合）

-2. 「唯一のもの」と言える例（共通認識がない場合）

b. 文脈によっては「唯一のもの」とは言えない例

5. 意図的に強調するためのもの

比較的弱い強調

He was **the** *son of a doctor*. (彼は医者の子だった。)

He hid himself in **the** *corner of his shop*. (彼は店の片隅に身を隠した。)

比較的強い強調

**The** *arrogant bastard!* (あの高慢ちきめ。)

**The** *impudence of the fellow!* (奴のあつかましさと云ったら。)

## 『特集編』の目次

- 特集 1 関係詞節と冠詞
- 特集 2 「数」とは無関係の、話題や情報を新たに提示するための不定冠詞
- 特集 3 前方照応の the と「強調」のための the、あるいは「唯一のもの」を表す the
- 特集 4 「発信者がそれを始めて知ったか否か」や「それが世間に知られているか否か」を判断基準とする例、  
あるいは「『既存のもの・これまでに実際にあったことか』か、それとも『存在しないもの・これからのことか』」  
を判断基準とする例
- 特集 5 動名詞と冠詞
- その1 動名詞と冠詞 5-1~
- その2 動名詞と名詞の使い分け 5-5
- その3 動名詞と名詞、そのニュアンスが異なる場合 5-6
- 特集 6 所有格と冠詞の違い
- 特集 7 序数詞と冠詞
- 特集 8 最上級と the
- 特集 9 相対最上級・絶対最上級と冠詞
- 特集 10 複数形の名詞と the
- 特集 11 名詞の単複の選択例
- その1 英単語の単複 11-1~
- その2 英語と日本語の違い 11-14~
- 特集 12 冠詞等を反復させるか否か
- その1 冠詞等を反復させない例 12-1~
- その2 冠詞等を反復させる例 12-5~
- その3 その他の注意点(繰り返すか否かで意味が異なる例など) 12-7
- その4 and 以下の冠詞等の有無による修飾・被修飾関係の判断 12-8~
- その5 **the first and the second chapter = the first and second chapters**  
のような、and が形容詞をつなぐパターンについて 12-10~
- 特集 13 冠詞を省略する例としない例
- ① 主に成句的な表現において、通常の文脈では定冠詞を省略しても差し支えない例 13-1
- ② 主に成句的な表現において、定冠詞もしくは不定冠詞を通常は省略する例 13-2~
- ③ 冠詞を省略しない例 13-5~
- ④ 定冠詞・不定冠詞・無冠詞の違いで意味が大きく変わる例 13-7~
- 特集 14 人名・肩書き等と冠詞
- その1 補語の例など 14-1~
- その2 固有名詞との併記例など 14-4~
- 特集 15 「The 比較級 ..., the 比較級....」の構文に関する注意点
- 特集 16 病名・症状名と冠詞